

# 第7回（2020年）The 7<sup>th</sup> Symposium for Women Researchers

## 仮説

学校内外の女子学生や女性研究者の研究に関する情報交換を活発化させ、生涯にわたってのネットワークを形成することを目的としている。「女子高校生から女性研究者までの縦の繋がりを作ることが、参加者の自然科学や社会貢献への興味・関心を高め、相互に可能性を広げる機会となる。」という仮説を立て、本イベントが理系女子の研究やキャリアに対する意識に与える影響を検証することとする。



日時	2020年11月1日(日)	11:00~15:15
時程	10:30~	受付
	11:00	オープニング 工学院大学 学長挨拶
	11:15~12:00	キャリア・ラウンドテーブルセッション (ランチタイム)
	12:10~14:35	オンラインプレゼンテーション・講評
	14:35~15:05	講演 『ゾウの時間 ネズミの時間』 European Molecular Biology Laboratory Barcelona 戎家 美紀 氏 (グループリーダー、第一回ジュン・アシダ賞受賞)
	15:05~15:15	クロージング 戸山高等学校 校長挨拶

参加者：講評者18名、オンライン発表者63名

発表数（物理5、化学21、生物18、地学5、数学6、情報8、計6校）

## 研究方法

参加者を対象にオンラインアンケートを実施した結果、60名のデータを得た。アンケートの項目は、①課題発見力(2項目)、②研究計画力(2項目)、③成果発信力(1項目)、④社会貢献力(6項目)、⑤理系女子の活躍の場とネットワークが構築できる環境の創出力(6項目)、⑥オンライン発表に関する感想(2項目)、⑦感想・要望等の自由記述(1項目)である。回答の選択肢には、「そう思う」「まあそう思う」「あまり思わない」「そう思わない」の4項目を用いた。

## 検証

①~④の項目はいずれも「そう思う」と「ややそう思う」の割合が8割以上となり、項目⑤においても、9割以上の参加者が「そう思う」または「ややそう思う」と回答し、その割合は昨年度よりもやや増加した。⑥に関しては、8割以上が「満足のいく発表ができた」と回答している一方、約4割の回答者が「対面での発表の方がいい」を選択している。⑦感想・要望等の自由記述には、「様々な分野で活躍する女性と交流がもて、良い経験となった。」「大学進学や興味のあることなどについて話し合うことができた。」「高校生の様々な分野にわたる研究に刺激を受けた。」「ランチタイムの交流が色々質問しあえて楽しい時間だった。」といった前向きな記述が多く見られたことから、今後も理系女子が活躍でき、縦の繋がりをもてる場を設定し続けることが重要である。